

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子西五反田保育園
施設所在地	東京都品川区西五反田7-19-1 五反田高木ビル2F
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

色

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

散歩先の公園で見つけた紫陽花の色がグラデーションになっていて、色の濃さや違いに気付き、観察をした。そこから、色図鑑で紫陽花の色調べをしたことで興味を持ち、公園で見つけた葉っぱなどを拾って色調べを行った。

## 2. 活動スケジュール

### 【色調べをする】

6月～7月：紫陽花を元に子どもたちが自分で色調べをして、調べたことを書いて記録に残す。

### 【色水を作る】

8月8日：色調べをしたことから色に興味を持ち、色水作りを行った。赤、青、黄色の三色の絵の具から二色選び、固めてから水が入ったペットボトルに入れて色が混ざる様子を楽しむ。

### 【図鑑で色を研究する】

8月～9月：色図鑑や染め物図鑑を購入し、子どもの手の届く所に置く。染め物図鑑を見て花染めに興味を持ち、色への興味を深めていく。

### 【お花屋さんへ花を買いに行く、色水を作る】

10月7日：お花屋さんに行き、子どもたちが決めた色の花を買いに行く。

10月8日、15日：買った花で色水を作る。

### 【絵の具遊びで混色を研究する】

11月11日：画用紙に描くことで色が混ざって変化することに気づいて友達や保育者と驚きを共有していた。

### 【染め紙遊びをする】

12月4日：色への興味さらに深めるために、1人ずつ絵の具パレットを購入する。そのパレットを使って、自分たちで作った色でキッチンペーパーを染める活動を行う。

### 【ハンカチ染めをする】

12月22日：10月に買った花でハンカチを染める活動を行う。

1月8日：染料を使ってハンカチを染める活動を行う。

1月～2月：染めたハンカチをままごとなどの遊びで使う。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・絵の具・パレット、キッチンペーパー、
- ・染め物図鑑などの図鑑類：いつでも見れるように手の届く所に置く。
- ・花：購入したら子どもの目の届く所に飾り、興味が継続するようにする。
- ・タイダイ染め：ステンレスのパット、ステンレスの網、染料、ハンカチ・クロスピン

## 4. 探究活動の実践

### <活動の内容>

<p>1. 【発見と記録】自然の色に目を向ける（6月～7月） 梅雨時期の「紫陽花」をきっかけにスタートし、色図鑑を使って子どもたちが自分で色を調べ、観察したことを記録に残す。その中でじっくり観察する力と発見をアウトプットする基礎を養うことができた。</p> <p>2. 【実験と探究】混色の不思議と図鑑での学び（8月～9月） 三原色（赤・青・黄）の絵の具を乾燥させて固め、ペットボトルに入れた水に溶ける過程で色が混ざる様子を楽しんだ。さらに色への興味を深めるために染め物図鑑を導入し、自ら調べる環境を整える。そうすることで混色への興味が、植物を使った「染め物」という次の活動へ繋がった。</p> <p>3. 【体験と挑戦】自分の「色」を形にする（10月～12月） お花屋さんで好きな色の花を買い、色水を作る。さらに自分専用の絵の具パレットを使い、キッチンペーパーを自分で混色を作って染める活動を行う。そこから活動を広げてハンカチを花の色で染める。これらの活動から「自分で選ぶ（買い物）」「自分で作る（調合）」という経験が、さらに意欲を高めていった。</p> <p>4. 【定着と活用】学びを遊び（日常）へ（1月～2月） 染料を使った本格的なハンカチ染めを実施。完成したハンカチを、ままごとなどの遊びに取り入れることで、探究した成果が「遊びの道具」として日常に生かされ、表現することの喜びと達成感を味わった。</p>
---

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

<p>色調べをする中で、色図鑑を見ながら「この色じゃない?」「これ似てない?」と話し合いながら観察していた。花や葉っぱだけでなく、室内でも玩具などを見て「色調べしてみる!」と言って自ら色図鑑を出して調べる様子が見られた。そこから、色が混ざると新たな色ができることにも興味を持ち、保育者が色水を作ってみようという提案する。色の三原色を使って実際に色水を作ると「紫になった!」、「僕は黄緑だよ!」、「こっちの方が色が濃いね」など様々な声があった。その様子から、絵の具パレットを1人1個用意して、自分で作った色で遊び、興味を深めていった。</p> <p>色図鑑や染め物図鑑でさらに関心を深める中で子どもたちが興味を持った花染めを行うために、花をどうするか問いかけると「お花屋さんに行きに行く!」という案が出た。実際に自分たちで買いに行くことで次の活動を楽しみにしていた。</p> <p>次の日に花で色水を作り、バラから色が出ることに驚いていた。染めることに興味を持っていることから、絵の具パレットで作った色でキッチンペーパーを染める、花や染料でハンカチを染めるなどの活動を行うことで、物によって染まる濃さの違いや色が混ざることについてその感動を友達や保育者と共有し合っていた。</p> <p>染めたバンダナを使ってままごと遊びをした。遊びに使うことで、「この色は私の!」「〇〇ちゃんの色綺麗だね!」「この色が好き!」などの会話があった。</p> <p>エプロンや三角巾、ランチョンマット、スカート、洗濯ごっこなど自分たちで工夫しながら遊びに活用することができていた。</p>
--



## 5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

クラスの一人の子の気づきがきっかけだったが、そこから広げることによってみんなが色に興味を持って、自ら調べたり「やってみたい」という気持ちに繋がった。元々、混色について知っている子も多く、「赤と青混ぜたら紫だよ！」などと言っていたが、紫でも混ぜる量によって変わる濃さや白を混ぜると薄くなることなど、新しい発見ができていた。また、自分専用の絵の具パレットを用意したことで、自分で好きな色を混ぜる経験から様々な色ができ驚きや達成感を得ることができていた。

花を買いに行き、その花で色水を作り、染め物してといった、継続した活動ができたことで子どもたちの中でもさらに意欲が高まっていたように思う。

保育者が発信することもあったが、その発信から子どものイメージが膨らみ、様々な案を出したりこんなことがやってみたいと発言する姿が見られた。その発言から活動を決めることができたため、全て決めるのではなく、子どもと一緒に考えることで活動への意欲が変化することが改めて分かった。

これらの経験から、友達と喜びを共有することや自分で発見する喜びを味わうことができた。